

case 2 先人たちから引き継いだバトンを次の世代へ ～下田の豊かな自然風景を守る職人たち～

下田市において毎年6月に行われる「下田公園あじさい祭」と、12月下旬から1月下旬にかけて開催される「水仙まつり」は、下田の大きな観光イベントであり、多くの方々が訪れます。15万株300万輪といわれる下田公園のあじさいや、ピーク時に300万本が咲くといわれる爪木崎の水仙。これらを管理する職人の舞台裏取材しました。



市内の公園の管理をしている下田市役所総務課行政管理係佐々木和也業務主任。10人ほどの職員と共に管理業務を行っています。

当たり前前景色を “当たり前”として見せ続けること ～下田市役所総務課行政管理係 佐々木和也業務主任インタビュー～

下田の豊かな自然の景観を象徴する下田公園「あじさい祭」のあじさいと、爪木崎「水仙まつり」の水仙は、自然に生息しているものもありますが、それだけでなく、人の手によって管理されていることをご存知でしょうか。

佐々木業務主任にインタビューしてまず印象的だったのが、“あじさい”も“水仙”も、開花シーズンのみ管理すればいいのではなく、開花していないオフシーズンにおける様々な作業（下準備）が重要であるということです。右ページのカレンダーが大まかな作業内容とその期間になりますが、これらを毎年毎年同じように繰り返すことで、私たちのイメージする、あの“あじさい”や“水仙”の景観が保たれていることに驚きました。



園路からの眺めを考慮して高さを調整しているあじさい。



ネットで枝全体を覆う作業を行う。



一つ一つ丁寧に枯れた花を剪定する。その数は300万輪。



猪の被害から守るための鉄製メッシュを敷く。



水仙の畑で花咲きが悪い部分に元気な株を植え直す。

より多くの人に自分の経験を伝えたい ～先人たちから受け継いだ“感動”という財産を活かして～

佐々木業務主任がこの仕事に携わったのは、今からおよそ4年前、きっかけは、下田公園の「あじさい祭」を訪れたことだといいます。

「あじさい祭の存在は知っていましたが、それまで行ったことがありませんでした。ふと、初めて訪れた時に、あまりの美しさに感動して、『自分もこの仕事に携わってみたい。』と思いました。」といい、続けて「自分が感じたこの感動を皆さんに体感してもらいたい。そのために日々現場で奮闘しています。」と笑顔で語っていたのが印象的でした。

インタビューの最後に、「先人たちが繋げてくれたこの景観を、次の世代へ繋げていくことが自分たちの使命です。」その一言に、職人の熱い思いが込められていました。

2つの花イベントを開催するまでの作業工程

	水仙まつり	あじさい祭り
12月	花が咲き始める。品種を揃える	
1月	咲いていない場所の確認	会場全体に肥料をまく
2月	会場全体に肥料をまく	新芽の成長具合に応じて剪定作業
3月		あじさい周囲の雑草の除去
4月		各株の大きさや形に応じて剪定
5月		
6月	咲いていない場所の球根を掘り起こし、別の場所で育てる	毎日手入れ
7月	土を乾燥させないため下草で覆う	挿し木をして増やす(植木鉢)
8月		花がら取り(咲き終わった花を付け根から切る)
9月	草刈り 球根の植え付け	あじさい周囲の雑草の除去
10月	水仙の芽が出る頃。手で草取り	各株の大きさや形に応じて剪定
11月		補植する

イベント開催期間

美しい景色を前に私たちができることは

以前ある研修会にて、“京都の渡月橋と山の紅葉”の景観について話を聞く機会がありました。日本の自然景観を象徴するような風景ではありますが、実は平安時代から人の手が加わり、“いかに美しく見えるか”ということを追求した「作られた景観」であると聞き、驚いたことがありました。

私たちが日々何気なく見ている景色には、実はその裏側でそれが“何気なく見えるよう”陰で支えている人たちがいるということ、このインタビューを通じて思い出しました。

心の拠り所となる美しい景観は、実は“誰かの支えの上”に成り立っているものかもしれません。私たちはまず、それを体感し、“大切である”と認識することから始めてみてはいかがでしょうか。



例年12月下旬から1月下旬まで開催される水仙まつり。